



地球時代の教育情報誌

# エデュコ **Educo**

No.47  
2018年

## 女優・作家 **中江 有里さん**

巻頭インタビュー p.2



### 知っておきたい教育 NOW p.4

- ①小学校社会科における学習指導要領改訂の重点項目
- ②社会的事象の見方・考え方をはたらかせる「問い」を育む授業を作るために

### きょういく見聞録 p.8

つまずきを出さない つまずきをなくす  
学力ポートフォリオ

### 地球となかよしトピックス p.10

檜原学園 地域との関わりを大切にしながら育つ

### Information 北から南から p.12

### 地球となかよしゼミナール p.14

「遊ぼう！ 写真はことば」の敷衍型思考の遊び  
選択・構成・コラボレーションを楽しもう

### コラム p.15

高大接続改革について(3)  
共通テストの最新情報に関わる二つの通知

### ほっとな出会い p.16

元 北飛山岳救助隊 **内野 政光** さん

# 読書ほど、人と人との コミュニケーションを 自然な形で学んでいけるものはない

女優・作家 | 中江 有里さん

**本を読む人たちの橋渡しになりたい**

私は、今は女優業とともに、小説、エッセイ、そして書評を書いています。テレビやラジオ、新聞、雑誌とさまざまな媒体でおすすめの本を紹介することも多いです。私は本が好きで、本に救われてきました。今は本が読まれないといわれることも多いですが、できれば本を多くの人に届けられる橋渡しのようになりたいたいと思っています。

**読書の勳**

子どものころは運動が苦手で、本を読むことが好きでした。他の科目と違って誰とも競わなくていいのが気楽だったからかもしれません。学校の図書館は私の居場所でした。友達と遊ばずとも、ここにいれば楽しい。当時は本の背表紙を見て、読む本を選んでいましたが、あれが「読書の勳」を鍛えてくれた気がします。

**子どもはみんな創造の達人**

子どもは想像の達人なんです。私も背表紙の題名からどんな物語なんだろうとワクワクしたことを覚えています。私には今年5つになる甥っ子がいますが、彼をどうやって本の世界へ導けるかを実験中です。最初は読み聞かせ、次はひらがなの練習。自分で読む楽しみを獲得し、本がある環境を大人が用意してあげれば、自分から本を手取るのではないでしょう。今のところ、成功しているようです。

**遺跡を発掘するよつに——  
物語を書く**

小説は読むのはもちろん、書いていてもさまざまな発見があります。書いてい

るうちに登場人物

が思いがけない行動をとったり、セリフを言ったりする。「あれ、どうして」と思いながら、登場人物たちを追いかけるように書き続けていると、自分がこの作品に込めたかったテーマが浮かび上がってくるんです。まるで遺跡の発掘みたいですよ。最初は何が出てくるかわからないところが、でも自分がどんなテーマを込めようと、読者が必ずしもテーマに気づいてくれるわけじゃない。結局読者は自由に読みた

いように読みます。そうしてわかるのは、自分の心です。本に照らされて自分の気持ちが高ぶる。読書によって「我を知る」んです。

**読書と演技——「その人物を生きる」**

読むこと、書くことは密接につながっています。「演じる」のもそうです。俳優は台本をもとに役作りをしますが、それはセリフやト書きだけを読むのではなく、むしろそれ以外の部分を想像します。自分の役の性格、家庭環境、好きなファッション……台本にはないところを読み、想像し、自分で履歴書を書く。そうやって演じるんです。

**手話の言葉の深さ**

以前、映画『風の歌が聴きたい』（大林宣彦監督）で妻役を演じました。トライ



## PROFILE

女優、作家

1973年大阪府生まれ。法政大学卒。1989年芸能界デビュー。テレビドラマ・映画に多数出演。2002年『納豆ウドン』で第23回NHK大阪ラジオドラマ脚本賞最高賞受賞。NHKBS2「週刊ブックレビュー」で長年司会を務めた。読書に関する講演やエッセイ、書評を多く手がける。著書に『わたしの本棚』、『ティンホイッスル』、『ホンのひととき 終わらない読書』などがある。

アスロンに挑戦されているろう者の高島ご夫妻がモデルです。夫の高島さんは手話指導者として撮影に参加されることになりました。クランクイン前、手話とトライアスロンの特訓が始まったころ、ジムのプールに高島さんがいらつしやいました。私はすでに水着でプールサイドにいたのですが、高島さんは洋服のままガラスの向こうの見学スペースにいます。思わず「泳がないんですか？」とつたない手話で聞かけたところ、手話で返事してくれました。「水着を忘れました」。この手話を理解できたことで手話の上達が早まりました。上手に手話をするより、気持ちがあれば伝わる。そのことをさらに実感したのは撮影中、急なセリフ変更があった時です。「独り言」というセリフが足されましたが、私は習ったことがない。すると高島さんが「自分で考えてやってみて」と言うので、自分なりに「独り言」の手話を考えて表現したら、高島さんが「それでいいよー」と。まずは相手に伝わることを、それが大事なんです。

## 「居場所」としての図書館・書店

私は小学生の時、月に一度の割合で家族とデパートに出かけ、その度に本を一冊買ってもらいました。幼い時期は自分一人で行けず、親の許可なしに自由に物を買ったりすることができませんが、唯一本だけは自主性を認めてもらえました。親に認めてもらえることは嬉しいし、自信も生まれます。ですからお子さんの本選びは、ぜひ本人に任せてください。少しくらいのお手伝いはいいですが、最終的には本人が好きな本を選ばせてください。

## 本との出会い・人との出会い

一生のうち、人はかなりの数の「選択」をします。進学先、就職先、結婚相手……失敗すると大変です。でも本の選択は楽ですよ、まちがってもまたやり直せばいいんですから。自分に合う本は必ずあると思います。自分の将来を導いてくれるような本に会える可能性もあります。私は本との出会いと人との出会いをよく重ねて見ているのですが、すれ違うだけの人もいますし、人と出会うのはすごく大変です。でも本は自分で選んでいけるし、ある程度読めばその本が一生の友達



になるか、今だけの知り合いになるかもすぐにわかります。

## なるべく早いうちから読書を習慣にしよう

読書はいつ始めてもいいですが、できれば早いうちがおすすです。それだけ読める本も増えるし、習慣にもなります。大学の卒業論文は端的に言えば、自分で考えた「問いかけ」に、自分で「答え」を出していくものです。実際卒論を書いた時に「問いかけ」を考えるのに苦しみましたが「答え」を探すのはおもしろかったです。書き終わって気づいたのですが「これは生きるということと同じだ」。自分自身に問いかけ、答えを見つける。

これまでの読書体験が自分への問いかけを促してくれたように思いました。

## 生きることは、自分で問題提起し、自分でその問いに答えよう

本に書いてあることが全部正しいわけではなく、全部まちがいでいい。常識も変わっていきます。だから自分の設問に対して自分がどう思うかが非常に大事です。「読む」ことは能動的な行為で、本を選ぶ時から読書は始まっています。本を読むことに対して受け身になってしまふのは、読むこと自体が文字を追っていくことだからかもしれません。でも本を読み取るのは自分自身です。

## 読書の種

読書は、いつ心に響いてくるかはわかりません。だから私はエッセイで

よく、「読書の種」と申し上げているんです。種をまいて、いつどんな花が咲くか、どんな実がなるのかは本人には全くわからないけれど、とにかくまいてみないと何もならないのが読書なんだと思います。

## 思いを読み取る――卒業に配られた『雨ニモマケズ』

私の高校の恩師は国語の現代文の先生で、卒業式の時に宮沢賢治の『雨ニモマケズ』のプリントが配られました。その時は「なんだろう？」と思いましたけど、後に「先生はいろいろおっしゃりたいことがあるんだろう。このプリント1枚に込めた思いがあるんだな」と思いました。生徒は大勢いて、生徒一人ひとりに掛けられる言葉は限られていますから、たぶんそこから何かを読み取ってほしい、と先生は思われていたのかもしれませんが、その時にはわからなかったことが、後からわかることもあります。実は育てられた人間にとっては一定の時期だけの師ではなくて、一生の師になっていくんです。私にもそういう「師」と仰ぐ人が数名います。教えを受けた時にはすぐにわからなかったことも、ちゃんと心に刺さっています。

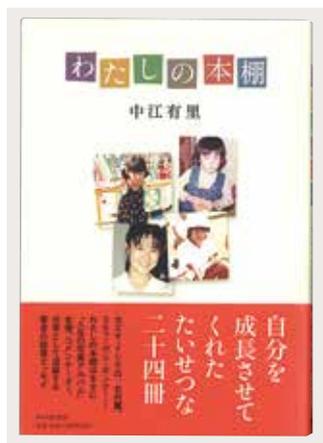
## 「あなたたちを、良い人間に育てますから」

私が芸能界に入った時にお芝居の師と仰いでいた先生から、「ここにいる人がみんなスターになるわけじゃない。だけど、あなたたちを良い人間に育てますから」と言われたことは今も覚えています。

そう言われた時に、私はちょっとホッとしました。「人を出し抜いて1位や2位にならなくていいんだ、良い人間になればいいんだ」と思っています。芸能界は生き馬の目を抜く世界です。そういう意味では私は全く芸能界に向いていないのですが、そういう私がなんとかやっていけているのは、その先生の言葉があったからです。私が尊敬する俳優の児玉清さんも、誠実に信頼できる方でした。私はこれまで尊敬する師の言葉や行動に影響を受け、師と出会えたことを幸せに思っています。

## 先に生きる人間が後に生きる人たちに示せるのはたぶん、「生き方」

先に生きる人間が後に生きる人たちに示せるのはたぶん、「生き方」なんだと思います。本人が悔いなく生きていくということ、今、この道だけが人生の全てじゃないということ。そして結局はやっぱり人柄なんです。人柄はどこにいても何をしても変わらないものなんです。ぜひそういうものを大事に育んでいただきたいと思います。



# 小学校社会科における 学習指導要領改訂の 重点項目

## 改訂の背景と教育内容の見直し

中央教育審議会答申（平成28年12月）では、小学校社会科の改善事項として、「将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である」として、次の点からの見直しが提言された。

- ① 世界の国々との関わりへの関心を高めるようにすること
- ② 政治の働きへの関心を高めるようにすること
- ③ 自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力に関する指導を充実させる

こと

- ④ 少子高齢化等による地域社会の変化を取り上げること
- ⑤ 情報化に伴う生活や産業の変化などを踏まえた教育内容を見直すこと

## 世界の国々との関わりへの関心を高める内容

この内容は、グローバル化する社会への対応の視点から、子どもが世界に目を向け、世界の事柄に関心がもてるようにすることである。

第3学年「地域に見られる生産や販売の仕事」では、「消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わり



聖徳大学 大学院 教職研究科  
教授 廣嶋 憲一郎

りなどに着目して販売に携わっている人々の仕事の様子を捉える」ようにする。その際、3年生から配布されるようになる「地図帳」を活用できるようにする。

第4学年「県内の特色ある地域の様子」では、「国際交流に取り組んでいる地域」を取り上げる。

第5学年「我が国の国土の様子と国民生活」では、「領土の範囲」を学習する際に、「竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れること」が大切になる。また、「我が国の工業生産」では、「交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉える」必要がある。

### 資料1

具体的な改善事項（小学校）

- 小学校社会科においては、世界の国々との関わりや政治の働きへの関心を高めるよう教育内容を見直すとともに、自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等に関する指導の充実、少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化に関する教育内容を見直すなどの改善を行う。
- 小学校社会科においては、これまで第4学年から配布されていた「教科用図書地図」を第3学年から配布するようにし、グローバル化などへの対応を図っていく。

## 政治の働きへの関心を高める内容

この内容は、18歳選挙権の実施に伴い、子どもにも主権者としての意識を高めることを目指すものである。

第6学年「我が国の歴史上の主な事象」では、「当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えられるよう配慮すること」が求められている。

第3学年「身近な地域や市区町村の様子」では、市の様子を調べる際に「市役所などの主な公共施設の場合と働き」を取り上げる。また、「市の様子の移り変わり」では、「市の公共施設の整備を進めてきたことを取り上げる」とともに、「租税の役割に触れる」ようにする。

第4学年「自然災害から人々を守る活動」では、「県庁や市役所の働きなどを中心に取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の関係機関との関わりを取り上げる」ようにする。

第6学年「我が国の政治の働き」では、第6学年の学習を「日本国憲法の基本的な考え方」からスタートさせるとともに、「国民としての政治の関わり方について多角的に考えて、自分の考えをまとめることができるようにする」ことが求められている。

### 自然災害における地方公共団体や人々の工夫や努力に関する内容

この内容は、自然災害などの防

災・安全に関する教育の充実を目指すものである。

第4学年「自然災害から人々を守る活動」では、「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などのの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げ、災害から人々を守る活動を捉える」ようにするとともに、「地域で起こりうる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちでできることなどを考えたり、選択・判断したりできるようにする」ことが求められる。

自然災害については、第5学年「国土の自然環境と国民生活との関連」で、従来同様「自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていること」を取り上げる。

### 少子高齢化等による地域社会の変化に関する内容

この内容は、人口の減少や人口構成の変化等により変貌する地域社会の様子を学習し、よりよい地

域社会の創造に関心をもつことができるようにするものである。

第3学年の「市の様子の移り変わり」では、「交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考える」ようにする。また、「人口を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるようにする」ことが求められている。

ここでの授業は、教科書に記された内容や展開の仕方を参考にすることはもちろんであるが、それぞれの市の実態に対応した資料の活用が必要になる。教育委員会等での副読本や資料集の作成が極めて重要になる。

### 情報化に伴う生活や産業の変化に関する内容

この内容は、情報化の進展に伴い産業や生活が大きく変化していることから、より適切な内容の見直しを図ろうとするものである。

**情報化に関する「5つの例示」**

第5学年の「我が国の産業と情報の関わり」では、「大量の情報や情報通信技術の活用がさまざまな産業を発展させ、国民生活を向上させていること」を取り上げる。ここでは、「販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げ、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができる」ようになることが期待されている。☞ (傍線は筆者)

# 社会的事象の見方・ 考え方はたらかせる 「問い」を育む授業を作る ために



東京都北区立豊川小学校 校長  
村松 良臣

## 小学校社会科における新学習指導要領の要点

平成29年3月に告示された新学習指導要領。今年度から総則等については先行実施であり、学校現場では主体的・対話的で深い学びを実現に向けた授業改善を行っている。

小学校社会科では、社会的事象の見方・考え方はたらかせ、問題解決的な学習を通して、各学年の目標にある身につけるべき資質・能力を育てていくことが示された。社会科において、主体的・対話的で深い学びを実現する上

で、特に深い学びを実現するためには、「社会的事象の見方・考え方はたらかせる」ことが重要である。「社会的事象の見方・考え方は」、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連づけたりすること（方法）」と整理されている。この社会的事象の見方・考え方は、「問い」の形となって表れるものである。今までも、学習問題、毎時間ごとのめあて、教師の発問、児童の

疑問などさまざまな「問い」が存在し、これからもこれらの「問い」を中心に授業は展開されると考えられる。しかし、見方・考え方はたらかせるのは、学び続ける児童である。児童が社会的事象に出合った時に、どのような「問い」をもち、追究し続けることができるかが重要である。

## 「問い」は、どのように表れるのか

新学習指導要領について私は、ご指導をいただき自ら勉強したり、先駆的に実践されている先生方の研究を通して学んだりしてい

る。しかし、実際に自分の学校の教員に、「『問い』が生まれる」とは、「『問い』となって表れる見方・考え方はたらかせる」とは、どのようなことを十分に説明できるほど体得できていない。ならば、自分が実践した成果から、実践してみた失敗から、そして実践する姿から伝えていくしかないと考え

る。管理職になり、これまでも若手教員の学級を借りて一小単元の実践をした。学習問題を立て、調べ活動を行い、まとめていく、一応の問題解決的な学習の流れについて拙いさまを見てもらってきた。主体的・対話的で深い学びを実現に向けた授業改善を進める上での留意点にも示されているが、単元や題材など、内容や時間のまとまりの中で実現を図っていくことを大事にしたい。昨年、現任校に校長として着任した契機もあり、新学習指導要領について自ら学ぶために、実践を試みた。そこから「問い」について考えていく。

## 実践した2つの授業から

○第5学年「身の回りの工業製品と私たちのくらしの変化」

本小単元は、わが国の工業生産の概要について学習するが、工業製品の改良に着目し、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解させる内容が新たに示された。そこで、単元の導入では、次の学習活動を展開した。

・身の回りの工業製品を調べ分類する。

・工業製品が変化していることに気づくことができるように、時代ごとの電化製品の写真を提示する。

この導入の学習活動から学習問題を作るために、児童が調べたいことを短冊に書き出し、整理した。「どこで作られているのか」、「どのように変化してきているのか」など、着目する視点に関する「問い」が作られていった。しかし、多くは、「それぞれの工業製品はどのように作られているのか」という工業製品の生産の工程に着目し

た「問い」であった。身の回りの工業製品を分類した活動から、わが国の工業生産全体ではなく、関心が工業製品に傾いていることは明らかである。次の小単元、工業生産に関わる人々の工夫や努力に関する内容につながる「問い」であるが、児童の追究意欲をもたせなければならなかった。

○第3学年「わたしたちがすんでいる北区」

まず導入で北区全体がわかる衛星写真を提示した。児童は、緑（公園）や建物、河川などに気づくことはできた。本区は、南北に武蔵野台地東端の崖線に沿って京浜東北線の線路が走っているなどの特徴はあるが、画像から鉄道・道路などの交通について、すぐに着目



することはなかった。また、西が丘にあるナショナルトレーニングセンターのトラックを

見て自分の学校のトラックだと認識した児童もいた。補助資料として、北区の様子がわかる写真を提示し、正しい理解を促しながら、北区の様子を知るために、先の実践と同様に調べたいことを出した。

児童から生まれてきた問いは、「どのように」「どのくらい」「どこ」「なぜ」ではなく、「いくつ」「がほとんどであった。」

・何人住んでいるのだろうか。  
・家が何軒あるのだろうか。  
・お店はいくつあるのかな。

社会科の学習を始めたばかりの時期では、数えることが自分たちの「調べる」作業と考えるのか、具体的な数を知ることでの知的欲求が満足するのか、また、さまざまな学力調査の結果から、図形や量感に課題がある本校の実態から、広さや面で捉えることが身につけていないのか、社会的現象の見方・考え方を育む前提だから、この程度でよい段階なのか、結論は出ていないが、児童の「問い」をどのように導き出すのか貴重な実践が

できた。

## 児童の「問い」を育むために

2つの実践とも、児童の疑問から学習計画を立てる際に、意図的な修正を加え、「問い」の形にした。ある程度教師の期待する「問い」を積み重ねていくことで、社会的現象への見方・考え方が育まれてくるのか。否、児童自ら「問い」を生み出す教材や資料、学習展開の工夫が一番であり、まだまだ研究しなければならない。

社会的現象の見方・考え方をはたらかせる「問い」を育むためには、既習（社会科に限らず）や生活経験の実態を的確に捉えた児童理解が必要であり、それを踏まえ、児童から生まれる「問い」を想定する。または児童から「問い」を生む手立てを考える単元の構想が必要であると考え。

自校の授業改善だけでなく、現在区の副読本の改訂作業に携わっているが、「問い」を問い続けながら、社会科の実践者でありたいと考える。



## つまずきを出さない つまずきをなくす 学力ポートフォリオ

教師はその時間にねらいとする学習内容を子どもたちにわかってもらおうと一生懸命に授業をしています。それでも学習のつまずきが起こります。一生懸命に授業をしている教師ほど原因がどこにあるのか悩みます。本校では児童一人一人の学習の定着状況を丁寧に見取る学力ポートフォリオに取り組み、基礎的・基本的な学力を定着させ、活用的な学力を向上させています。子どもの学習状態を把握し、学校全体で教材分析をし、指導方法を工夫、改善して学力を向上させる取り組みについて紹介します。

東京都 足立区立弘道第一小学校 校長 佐々木浩志



### 学力ポートフォリオの2つの役割

学力ポートフォリオの役割のひとつは、児童の学習到達度を高めることにあります。学習の定着状況が低い児童を把握することと、そのつまずいている学習内容を明確にすることです。つまずいている児童のつまずきを学習後にできるだけ早急に解消することで学習内容を定着させ、理解できないままで次の学習に進めないようにすることです。

もうひとつは、教師の授業力を向上させることです。児童の学力を高めるには、児童が学習内容を的確に理解できるようにし、正確に表現できる技能を身に付けさせる学習を展開することが必要です。つまり教師の授業力を高めなければ児童の学力の向上は望めません。教師の授業力を高める方法が学力ポートフォリオです。

### 学力ポートフォリオ分析

単元末に行う総合的な評価であるテスト結果を、児童の学習到達状況を把握し学力ポートフォリオで分析するデータとして活用します。

算数科においては、「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」の観点と、「数と計算」「図形」「量と測定」「数量関係」の領域で、児童個人や学級、学年ごとに集計することで、学習の到達状況を分析し、未到達な学習内容や児童について把握します。

データをグラフ化することで視覚的に到達状況を捉えやすいようにしています。

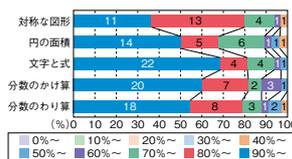
グラフ1は、第6学年の学級の到達状況です。「対称な図形」の学習では到達率が90%の児童は40%弱で到達率80~90%の児童が40%、80%未満が20%いることから、この学級にとって難易度が高かった学習であることがわかります。

グラフ2は「数学的な考え方」、グラフ3は「技能」、

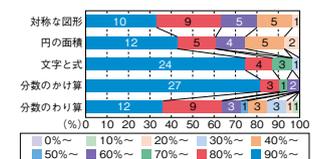
グラフ4は「知識・理解」の到達状況を表しています。学級全体としての到達度が低い「対称な図形」のそれぞれの到達状況を見てみると、90%以上の到達度は「数学的な考え方」では約30%、「技能」では60%弱、「知識・理解」では80%であり、「数学的な考え方」と「技能」の内容の難易度が高く、指導に時間をかける必要があることがわかります。

グラフ5は個人の到達状況です。この児童は「文字と式」「分数のわり算」の学習で到達度が77%と他の単元と比べて到達度が低くなっています。グラフ6「数学的な考え方」、グラフ7「技能」、グラフ8「知識・理解」の到達状況から考えると、「知識・理解」はおよそ理解ができているけれども、「文字と式」で

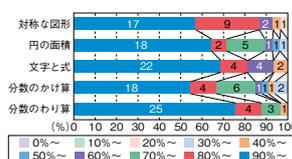
グラフ1 学級 (単元 到達度)



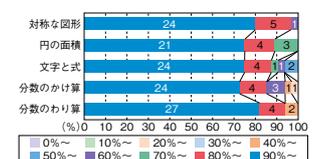
グラフ2 学級 (考え方 到達度)



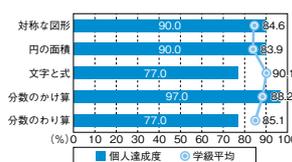
グラフ3 学級 (技能 到達度)



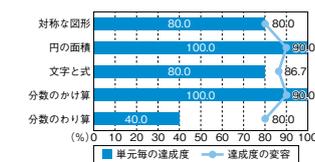
グラフ4 学級 (知識・理解 到達度)



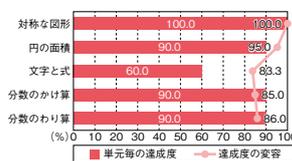
グラフ5 個人 (単元 到達度)



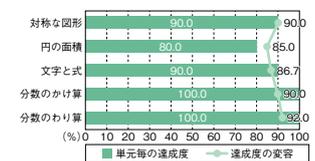
グラフ6 個人 (数学的な考え方 到達度)



グラフ7 個人 (技能 到達度)



グラフ8 個人 (知識・理解 到達度)





## 東京都西多摩郡檜原村 檜原学園

### 地域との関わりを大切にしながら育つ

東京都西多摩郡檜原村では、毎年8月の下旬から9月の中旬にかけて村内13の地区で秋祭りが実施されます。(春冬に実施するお祭りもあります) 檜原村の人々に代々受け継がれてきたお祭りには檜原村の小・中学生も活躍し、伝統文化を継承しています。獅子舞や神楽、能など伝統を伝えるために頑張る子どもたちの活動を紹介します。

#### 伝統を受け継ぐ

東京都の西、山梨県や神奈川県と県境を有する檜原村は、人口が2200人あまりで、東京都では陸続きで唯一の村です。その村に古くから伝わる郷土のお祭り(伝統芸能)がたくさんあります。本宿地区の「御とう神事」、小沢・笹野地区の「式三番」、柏木野地区の「神代神楽」、数馬地区の「太神楽」、藤倉・人里・数馬地区の「獅子舞」は、東京都無形民俗文化財に指定されています。また、多くの地区に伝えられている「獅子舞」の起源は、室町時代までさかのぼります。

そのような伝統芸能を受け継ぎ、次の世代に伝えるために、檜原村の小中学生は頑張っています。お祭り本番の1か月くらい前から週に何回か練習が始まります。男子は獅子舞

や神楽を踊り、女子は篠笛を吹いたりさら役を演じたりします。子どもたちは、地域の方から指導を受けながら練習に励みます。獅子舞は篠笛の音色に合わせて踊り、ときには重さ2キロほどの獅子をかぶって本番さながらの練習も行います。30分の練習でも、終わった後は汗びっしょりです。当日は、子どもたちも本番を前に神事に参加し、獅子舞や神楽を舞う男子は大人と一緒に近くの川で身体を清めてから本番に臨みます。

#### 地域に見守られる子どもたち

最近、世間では近所に住む人の顔すらよくわからない地域が増え、また地域の人たちとの関わりが薄れ、子どもたちがさまざまな犯罪に巻き込まれるケースも増えてきました。



▲人里地区の獅子舞で篠笛を吹く小中学生。



◀舞を終えホッとする中学生。



▲明暦3年（1657年）から伝わる獅子舞を教わる子どもたち。



檜原村の各地区では、お祭りを通して地域の人たちと子どもたちの関係はとても良いものとなっています。伝統芸能を教え、伝えることで、地域の人たちは子どもたちから尊敬され、慕われる存在となっています。どこで会っても気軽に声を掛け合える関係にあり、地域全体で子どもたち



▲ささら役の子どもたち。

ちを見守り育てています。今年も、数年に一度の芸能祭りが10月28日に行われました。村の各地区の獅子舞や能、神楽が1か所に集まり披露され、ここでも各地区の子どもたちが大活躍しました。



全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

**北** 北海道のほぼ中央、空知管内の北西部に位置する沼田町は、山は青く水は清い、豊かな自然に恵まれた町です。昭和40年代の炭鉱閉山や農村部の過疎化による人口減少に伴い、現在の小学校1校、中学校1校体制となりました。近年の全国学力・学習状況調査等では、小中ともに学力、生活習慣等に多くの課題が見られ、児童生徒質問紙の「将来の夢や希望等」の質問では全国平均との顕著な差が憂慮されました。

平成25年度、町民に情報公開するとともに、「これでいいのか!」を合い言葉に、小中一貫・連携教育基本計画を策定し、沼田町総がかりで小中一貫教育の取り組みを推進しました。

①小中一貫教育目標「ふるさと沼田を愛し、自ら進んでたくましく郷土の発展に寄与する子」の実現に向け、9年間で4年（基礎）－3年（広げる）－2年（深める）の3期に見据えた新た

な教育スタイルに着手しました。

②オール北海道規模の公開研究会開催（平成27年度、28年度）を経て、教職員の参画意識が高まり、小中共通の研究主題の設定、教育振興会組織体制の刷新等、研究体制の充実に努め、一貫・連携教育の質の向上に努めました。

③小・中学校教諭の相互の乗り入れ授業、小6による中学校登校、沼田ならではの学び（沼田学、ハローイングリッシュ）、合同行事（小中合同運動会、夜高あんどん祭り合同はね踊り）等による相乗効果により、全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回る著しい学力向上が見られました。

④生活習慣の改善をめざす「家庭地域部会（PTA役員等20名）」による家庭の教育力の輪の広がりが、力強く学校教育を下支えしています。

平成30年度、小中一貫型小・中学校「沼田学園」がスタートし、開園式には児童生徒169名の合同合唱が体育館いっぱい響き渡りました。さらなる沼田ならではの教育が躍動しています。



## 北海道

### 小中一貫教育「沼田学園」

「夢や希望の実現に挑戦し心豊かにともに支え合いふるさと沼田に誇りを持ちたくましく成長してほしいと願って」

北海道沼田町教育委員会 教育長 吉田 憲司



**東** 日本大震災の最大被災地である石巻地域の真の復興は人材育成であると決意し、平成24年に『耕人塾』を立ち上げてから今年度で第7期を迎えます。発足当初は10数人での活動から現在は塾生26名のほかに運営委員、指導委員、協力員、サポーター等200名を超え、市民からの認知度も高くなってきています。『耕人塾』の目標は、研修や実践活動を通じて「人間力」を磨き、自らを耕し周りの人をも耕すことによって「世界に誇れる石巻地域」にすることです。

今年度は、これまでの活動をさらに発展させるために、コンセプトを「楽しさと主体性」とし、塾生の発想を生かした取り組みを取り入れています。特に、「プロジェクトK（耕人塾のK等）」では石巻地域最大の祭りである「川開き祭り」当日にゴミ拾いを行う計画が塾生から提案され、「孫兵衛も喜ぶ美しいまつりに」をテーマに、ほかの団体とも連携しながら35度の炎天下の中でゴミ拾いをしました。「動くゴミ箱」を背負い、明るくあいさつをしながらゴミ拾い活動を行う

塾生の姿が地元マスコミにも大きく取り上げられ、故郷を愛する心の輪が市民全体に広がっています。

塾生の中には中学生から高校3年生まで継続して参加している人が何人かいて、リーダー的役割を担っています。また、第1期生が監督をしている少年野球の部員4名とともに『耕人塾』に参加し、積極的な活動をしており、人材が育成されつつあることを実感しています。震災から7年7か月になりますが、真の復興はこれからです。『耕人塾』が核となって「世界に誇れる石巻地域」にするための活動をさらに発展させたいと決意を新たにしています。



## 宮城

### 第7期『耕人塾』の活動から

『耕人塾』塾長（石巻専修大学客員教授） 木村 民男

## 未来を生きる子どもたちの学びを創る 地域を生きる・地域を活かす人材の育成

高知市立義務教育学校土佐山学舎 校長 竹崎 優子

**本**校がある高知市土佐山は、市街地から車で約30分程度の高知市北部にある自然豊かな中山間地域です。高知市は平成23年に「土佐山百年構想」を打ち出し、土佐山地域における人口減少に歯止めをかけ、逆に交流・定住人口を増やすことで地域振興を図る取り組みをしています。本校は、この土佐山百年構想におけるプロジェクトの一つに位置づけられ、4年前に施設一体型小中一貫教育校として開校し、翌年には義務教育学校になりました。校区内の子どもたちは60名程度ですが、特認校制度により、地区外から通う子どもたちの数は年々増え、本年度は全校児童生徒数が142名になりました。

### 【大きな夢と高い志をはぐくむ土佐山学の実践】

本校では、生活科と総合的な学習の時間を「土佐山学」と呼び、単なるふるさと学に留まるのではなく、地域という身近な素材を生かし、学んだことを表現するコミュニケーション力の育成や自分のキャリア形成にまで生かすことをめざして取り組んでいます。昨年度の9年生は、今までお世話になってきた地域の方々に、かたに残るものを贈りたいと考え、そのための資金を作るために模擬株式会社を立ち上げ、地域にある「ゴトゴト石」（落ちない石）をモチーフとした合格祈願のためのオリジナル文房具を開発し販売しました。

本年度の9年生は、地域の特産品であるゆずを広く知ってもらうために、地域に対して「ゆず祭り」の開催を提案し、2回目となる今年は開催場所を土佐山から市街地にある「ひろめ市場」に移し準備を進めています。運営に必要な人的・物的支援をお願いするために、一般企業を訪問し自分たちの企画をプレゼンして回っています。このように、地域という身近な素材を活かし、学校から地域を活性化するという中山間地域の教育モデルを、可能な限りの資源やツールを活用して発信しています。

### 【コミュニケーションを図る 資質・能力を育成する外国語 教育への挑戦】

本校では、外国語（英語）教育にも力を入れており、子どもたちが卒業するまでに、英検2級の取得をめざしています。昨年度の9年生は約85%が3級を、そして約60%が準2級を取得して卒業しました。本年度の9年生は、3名がすでに2級に合格しています。学校には英会話スクールから雇用した外国人教師がおり、英会話スクールのノウハウもいっしょに取り入れた授業を行っています。1年生から英語の授業はほぼ

英語で進められ、スピーチやプレゼンテーションも行っています。前述した土佐山学の発表会を、毎年、全学年でポスターセッションの形式で開催していますが、高学年では英語で発表したり、外国人の参観者と英語でやり取りをしたりすることもあります。子どもたちには、土佐山を一つのブランドとして、全国へ、世界へと売り出すことができる英語力を身につけてほしいと願っています。

変化の激しいこれからの社会を生き抜いていくために、子どもたちに必要な資質・能力を育成していくことが学校教育の大きな役割だと考えています。将来、土佐山という地域を生きる、また、土佐山という地域を活かす人材を育成するために、他では見られない魅力ある教育活動に挑戦し続けたいと思っています。



# 「遊ぼう！ 写真はことば」 の敷衍型思考の遊び

選択・構成・コラボレーションを楽しもう

大阪教育大学 松山雅子

## 再発見！ 思考ツールとしての 絵コンテ法

組み写真をもとに話を創作する、紙芝居やスライドショーを作成する。古くから、学校でよく見られる風景です。では、その楽しい作業が、国語科の思考力を育む大切なツールとして機能していることを、あらためて再評価してはどうでしょう。「遊ぼう！ 写真はことば」の四コマ物語創作実践例をご紹介します。

A Bは、同じ2枚の写真を同じ順序に並べ、全く異なる語りの導入部を創造した6年生作品です。Aは、被写体をていねいに言語化する生活用語風。何気ないスナップに、特別な「今日」、ハイテンションな早朝という時間軸を与え、匿名性の高い写真を、作り手固有の世界に特化していきます。写真の連続は、車中からプールへ舞台を転換し、時の経過も自然に読み取らせます。ここで言語能力として着目すべきは「着いてさっそくプールへダイブ！」の瞬間的な行動表現です。これで、写真はダイブの瞬間写真に見事に限定され、言葉の上では「思いつき遊びました」と時間は経過し、なお語りの今を感じさせます。

Aの語りを三人称の行動叙事型とすれば、Bは、ナレーター木口の一人称実況放送風。被写体の子どもは眺められる存在「この人

たち」として読み手の前に登場。当事者の声も漏れ聞こえるライブ感の演出です。ナレーションが「完全に他人からの視線だったのがおもしろかった。」等、語り手の存在に関心を抱いた児童も少なくありません。

## 文脈による化学変化を楽しむ 思考法

「へいぼんな日々」と題されたCは、三コマ目に、この車中の子ども像を置き、過去の入り口としたところに関心が集中したようです。匿名の写真は、限られた4枚の順序性のなかで視覚的な語りを生み、言葉

と融合し、四コマ目は心象風景へと変容しました。

ベン図やXチャートなど、概念型思考ツール同様、絵コンテ法も、それらとは対照的な敷衍型<sup>ふえん</sup>の思考ツールとして有効な学習方法です。概念型と敷衍型の両者をいかにバランスよく授業に取り入れ、柔軟で応用力のある思考力を育むか。この観点から、国語科の組み写真の学習を見直してみてもうでしょう。



B 私はナレーションの木口です。この人たちすごくうきうきしてそうですね！「早くついてほしいな〜」「私もそう思う」

A 今日は待ちにまったお出かけの日。朝早いのにもかかわらず、2人ともテンションMAX♪



ちょっとはしゃぎすぎてますよ。時間はたっぷりあるのだから。「ウェーイ」「楽しいな〜」

着いてさっそくプールへダイブ！思ってた以上の混雑ぶり…。しかし思いつき遊びました。



1



2



3



4

3 目の前には、男の子一人、女の子一人が仲良く座っている。佐々木さんは昔のことを思い出す。(小学生かな…こんなぼくにも、楽しい子ども時代があったような…) / 男「今度どこ行くー？」女「うーん。川？」 / (川…。)

4 佐々木さんが小学3年生のころ。幼なじみのフミちゃんと川で遊んだ。昔のことを考えながら。佐々木「早く〜。フミちゃん、入っておいでよー。」フミ「冷たいねー。」(楽しかったなー。フミちゃんは元気かな?)

C ①ただただへいぼんな毎日を送っている。佐々木さんは会社帰り。佐々木さんはフラフラと帰る。何もなさすぎる日々。それに絶望すらもなくなった佐々木さん。駅に向かった。「今日もフリーの日がフリーに終わった。楽しくもなかつらくもない日々。いつまで続くのだろうか…。昔は楽しかったんだっけ…」

②佐々木さんは電車に乗った。

## 高大接続改革について(3) 共通テストの最新情報に関わる二つの通知



独立行政法人  
大学入試センター  
審議役大杉 住子  
(前 文部科学省初等中等教育局  
教育課程課教育課程企画室長)

共通テストの問題のねらいや実施方法等は、正式には、本年11月に実施される試行調査の分析・検証を経て、来年度初頭に公表される予定であるが、高校においては、既に高校1年生となっている共通テスト受験生に対する指導内容や進路指導が、また、大学においては2020年度を見据えた入学者選抜の実施準備が既に開始されているところである。そうした準備に生かしていただくため、センターでメールマガジンの発行も含め、さまざまな方法で情報提供を行っているが、その中でも、共通テストの最新の動向にかかわり重要となる二つの通知についてご紹介させていただく。

一つ目は、本年6月18日に発出した「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について」の通知である。共通テストの実施に向けて現在検討されている問題作成の方向性等を、試行調査の趣旨と併せてお知らせするのがこの通知の目的であり、通知冒頭では「問題作成の方向性」として①センター試験の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成、②高校教育の成果として身に付けた大学教育の基礎力を問う問題作成、③「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定を挙げている。実施教科・科目等や記述式問題の導入、マーク式問題における新たな解答形式等についても方向性を示しており、特に国語の記述式問題については、成績表示についてマーク式問題の配点(200点)とは別に、記述式問題の段階別評価が示されること、段階の数については、小問ごとにa/b/c/dの4段階表示、総合評価については80~120字程度を記述する小問についてのみ1.5倍の重み付けを行った上で、A/B/C/D/Eの5段階表示とすることが検討されている。生徒たちが記述式問題の解答に関する不安を減らしていけるよ



う、記述に当たっての留意点も示しているほか、各教科・科目における問題作成の方向性や、受験上の配慮のあり方、今後の予定などについてもお知らせしている。通知全文はセンターのHPに掲載されているので、ぜひ生徒や保護者等との情報共有にもご活用いただきたい。  
<http://www.dnc.ac.jp/news/20180618-01.html>

二つ目は、本稿執筆段階で発出準備を行っている「大学入試英語成績提供システム」の概要及び共通IDについて通知である。このシステムは、英語について民間の資格・検定試験の活用が円滑に行われるよう、受験生・試験実施主体・大学・大学入試センターの四者を一体的につなぐ仕組みである。システムを通じて提供されるのは、受験年度の4月~12月中旬までの2回の成績が基本となり、受験生は、資格・検定試験の受験申請の際、あらかじめ付与された共通IDを記入して受験することになる。こうしたシステムの詳細等について、近々通知でお知らせしHPにも掲載させていただくので、ぜひこちらもご覧いただきたい。

試行調査の趣旨及び概要、試験問題やねらい、結果、自己採点用紙等については、大学入試センターのホームページをご覧ください。



イラスト ひらた ゆうこ <http://www.pastelboat.com>

第17回

## 地球となかよしメッセージ

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

教育出版

「地球となかよしメッセージ」事務局

TEL 03-3238-6864 <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

作品募集  
(2019年7月1日  
~9月30日)



\*第16回(2018年度)作品のお問い合わせについても、「地球となかよしメッセージ」事務局へ。

# 山で学び，山で育つ ～いつも初心の気持ちで～

## 登る勇氣・引き返す勇氣

北飛山岳救助隊は、山が好きで救助活動ができる地元の人たちの団体です。ぼくは35年間救助活動をしてきました。天気が良い日の山はすばらしい眺めで、北アルプスから富士山などが見えます。登山中は「こんなエライ（大変な）所にはもう来ないぞ」と思っても、下山して少し経つとまた行きたくなくなります。少しましがえれば死と隣り合わせにもなります。登る勇氣も必要、引き返す勇氣も必要です。

## 『怒りの山岳救助隊』

道徳の教科書に載った『怒りの山岳救助隊』は、入隊20周年の本を出す時に「各隊員はこれまでの体験談を出すように」と言われて書いたんです。ぼくらは年に数回、登山シーズン前に警察と民間の合同救助訓練をしています。ある日、訓練中に遭難事故の連絡が来て、



すぐ現場に向かいました。雪が溶けて空洞になつていて、大量の雪が落ちてくる可能性がある。3人で空洞の中に入っただけが人を救助しました。けが人は約一週間入院して帰りましたが、しばらくして負傷した時に貸した隊員の名前入りの上着が帰ってきていないことがわかりました。「上着を返して欲しい」と手紙を出したら、10日過ぎたころにダンボール箱が届きました。箱を開けたら、お札の手紙もなく血のついたままのシャツが入っていました。救助隊20周年の記念本を作る時に、ぼくはその時のことを書きました。今もその人は生きていて思うし、ひよっとしたらこの本を読んで「自分のことかもしれない」と思うかもしれないと思つたんです。これから大人になる子どもたちにはそうなつてほしくない。感謝の気持ちをもつて「ありがとうございました」の一言があればそれでいいんです。あまりにもひどい仕打ちでした。あの本は約200冊作りましたが、読んだ方からの反響が大きくて、のちに教科書にも載りました。

## 山の自然の美しさを教えてあげたい

地元の子もまたは小学校3年生になると、先生や保護者と一緒に周辺の約2500mから2800mの山を登ります。子どもたちは将来都会へ出て就職しますが、大人になってから北アルプスの山の名前を知らないようでは困るんです。今も子どもたち

に山の魅力などを教えながら活動しています。年に一度は山に来てくれる灘中学校や龍谷中学校などの人たちも、今もサポートしています。これは10年前に先生方から、「子どもたちに勉強ばかりではなく、山の自然の美しさを教えてあげたいんです。内野さん、教えてくれませんか」と話から始まりました。最初は脱いだ靴を揃えなかつた子どもたちが、先輩から指導されて服装も変わり、山のルールも守るようになって、数年で「あの学校の子たちはすばらしい子どもになつてきたな」と言われるようになりました。そういうことがぼくらの喜びです。そして昔の生徒が今度は先生になつて来るんです。「内野さん、ぼくのこと覚えてますか？」って。感激しました。今はレスキューの現場へはほとんど行きませんが、依頼があると子どもたちと山へ行って、ぼくの体験や高山植物の名前を教えたりしています。山をある程度知つている人と行く山は、深みのあるおもしろい体験ができます。下山してからもいろいろな話ができます。山はいつまでも語れる楽しい思い出になるんです。繰り返しますけど、必ず事前に自分が登る山を下調べしてください。地元の警察署や観光協会で「山について教えてくださる人はいませんか」と聞くと紹介してくれます。天気さえ良ければ、北アルプスはすばらしいところです。

うちの まさみつ 岐阜県北飛（ほくひ）山岳救助隊元隊長。山岳救助隊での35年間のうち、7年間隊長を務める。

## Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆「ほっとな出会い」は感動しました。このような人間の究極の幸せを実践している経営者と社員がいるのだと初めて知りました。まさに究極の人の学びですな。（東京都 T・R）
- ◆大山社長の「ほっとな出会い」が素晴らしい内容でした。「人に作業工程を合わせる」はまさに教育に通ずるものです。（岩手県 H・T）
- ◆日本サッカー協会会長 田嶋幸三氏のインタビューは、興味深く読みました。特に「学び続けることをやめたら、教えることもやめなければならない」、「学び続けること」、学校教育に携わる全ての人が胸に刻むべき言葉だと思いました。（北海道 Y・D）
- ◆本田優子先生の「ウレシバ・プロジェクト」。昨今耳にするダイバーシティは、まず多様性を実感し、わかりあうことと教えていただいた。（北海道 N・K）

## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のいのちのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。